

# 都市みらい通信

## IFUD LETTER

Institute for Future Urban Development

平成15年8月

(財)都市みらい推進機構

□まちづくり情報

・室町一丁目地区第一種市街地再開発事業  
について

□都市再生研究会活動レポート

□都市みらいカレンダー

□「地域づくり活動出合いの広場 整備調査」  
のご紹介

□品川新拠点研究会 設置のご紹介

平成15年8月31日

□まちづくり情報

平成15年春、紫川河畔（北九州市）に新しい街が誕生しました。「リバーウォーク北九州」は、商業・文化・情報など多彩な都市機能の融合が大きな魅力となっており、開業以来多くの来場者でにぎわっています。是非、一度この街をのぞいてみて下さい。きっと新たな発見があります。

当財団は、この事業のお手伝いはしておりませんが、まちづくりに関する各種情報の一環として、ご紹介いたします。

(開発調査部 磯部)

### 室町一丁目地区第一種市街地再開発事業について

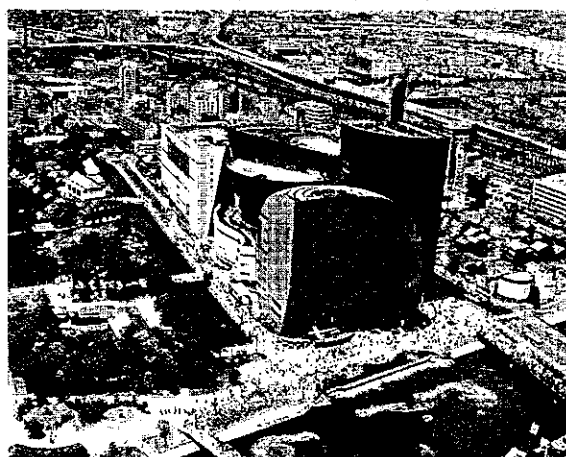
室町一丁目地区第一種市街地再開発事業の1期事業として整備が進められてきた再開発ビル「リバーウォーク北九州」が、本年4月19日にオープンしました。

北九州市はこれまで、長期構想である「北九州市ルネッサンス構想」の中で重点施策として小倉の都心機能の強化を掲げ、小倉駅周辺の再開発や紫川周辺を総合的に整備する紫川マイタウン・マイリバー整備事業などを行ってきました。

本事業は小倉都心整備の集大成として、街のオアシスである紫川・勝山公園の自然や小倉城などの歴史的遺構と調和した新しい北九州市の顔づくり、豊かな未来へのシンボルとなる賑わい空間の形成を目指すものです。

この「リバーウォーク北九州」は、①専門店街・シネマコンプレックスの商業施設、②北九州芸術劇場・市立美術館分館の文化施設、③新聞社・放送局などの情報発信施設からなる一大

リバーウォーク北九州



複合施設です。

特に、8月11日にオープンした北九州芸術劇場は、大・中・小三つの劇場を備え、市制40周年の基本テーマである「文化創造 北九州」の中で中心的な役割を担う本市の文化芸術の拠点となる施設です。コンサート、ミュージカル、演劇、狂言などさまざまなオープニングラインナップが予定されています。

この再開発により、小倉城から勝山公園、紫川一帯は新たな人の流れが生まれ、地域全体として商業・観光資源としての魅力が高まり、小倉城のお堀や紫川のほとりで人々が憩う姿も多く見られ、予想を上回る人出で賑わっています。

また、駐車場駐車車両ナンバー調査によれば、半数以上が北九州市外ナンバーとなっているなど、北九州市域にかぎらず広域から人を呼び込んでいる状況です。

さらに、「京町商店街、魚町商店街、小倉井筒屋などの歩行者通行量、来店者や売上」、「小倉城など周辺施設への入館者数」、「勝山橋や鳴外橋の歩行者通行量」などの増加や、各種マスメディアで紹介される豊富な話題性の提供など、本施設オープンに伴う波及効果も多く見られます。

このように、本事業目的の一つでもあった「まちの賑わいづくり」、「集客性の向上」等において、効果が表れています。

#### \*再開発事業概要

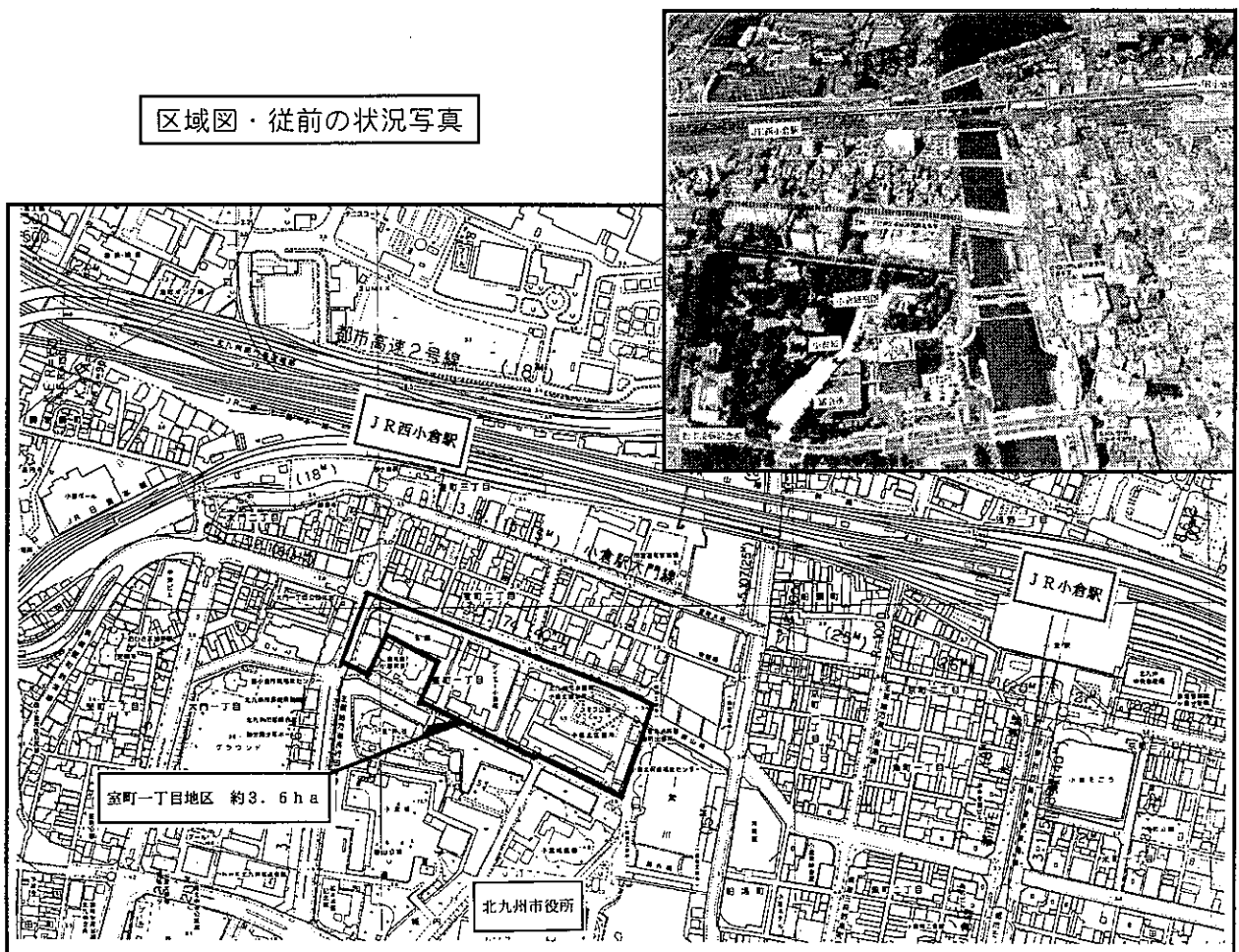
地区面積：約3.6ha

敷地面積：約25,000m<sup>2</sup>（うち1期：約22,000m<sup>2</sup>）

延床面積：約178,000m<sup>2</sup>（うち1期「リバーウォーク北九州」：約162,000m<sup>2</sup>）

主要用途：商業、業務、文化、駐車場 B2F/15F

区域図・従前の状況写真



(寄稿：北九州市建築都市局 再開発部再開発課)

■都市みらい推進機構の「都市再生研究会」は、会員企業45社90名の参加を得て、5つのワーキンググループ(WG)、4つのサブWGの体制で活動中。自主研究の強み・特長を活かしたオリジナルの都市再生理念を創出し、大都市圏を対象とした都市再生モデルプランを構築、都市再生本部等や主要自治体に対する政策提言を目指しています。半年間に亘る研究成果を中間まとめとして整理し、7月23日の第9回幹事会での審議を経て議論を集約。7月31日付けで「中間報告書」を発行しました。関係機関との意見交換会を順次実施、アドバイス等をいただき後半の研究活動につなげていきます。(★「中間報告書」入手ご希望の方は、iwai@toshimirai.or.jp まで)

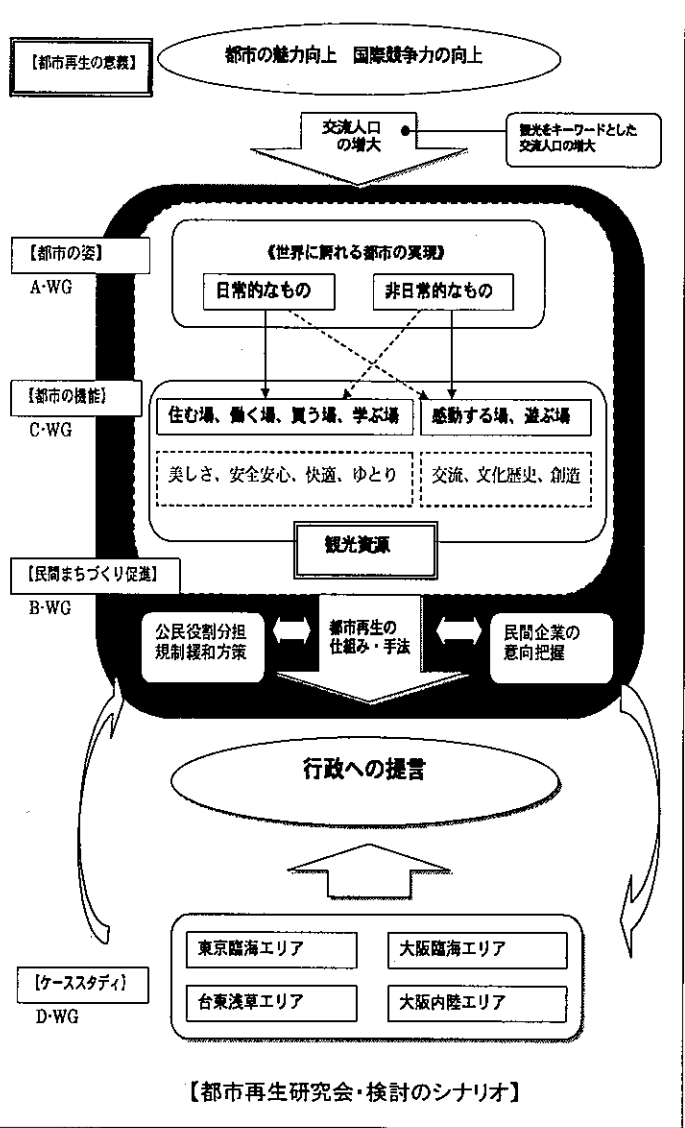
■中間報告・意見交換会：都市再生本部事務局

8月19日、大石参事官にご出席いただき、都市再生本部事務局との意見交換会を開催しました。  
はじめに大石参事官から資料「都市再生の現状と課題」に基づき都市再生本部発足以来の活動状況、8月8日に締め切られた「全国都市再生モデル調査」の応募状況等最新の動向をご説明いただきました。  
引き続き研究会「中間報告書」に基づき、幹事長(福岡委員; NEC)から第5章「提言(素案)」を中心にプレゼンテーション。大石参事官から今後の活動充実に向けて、有意義なコメント・アドバイスをいただきました。

- 日 時：平成15年8月19日(火) 13:30~15:30
- 場 所：都市再生本部事務局内会議室(霞が関ビル13F)
- 参加者：内閣官房 都市再生本部事務局 大石参事官  
都市再生研究会幹事メンバー  
都市みらい推進機構関係者
- 内 容：1. 都市再生本部(事務局)の最近の活動状況  
2. 都市みらい 都市再生研究会 中間報告  
3. 意見交換(フリーディスカッション)

■主なコメント

★「都市再生」「観光立国」「構造改革」は、三位一体で取り組んでいく。  
★都市観光は都市再生の重要な視点。観光立国懇談会の提言を国土交通大臣が受け、関係省庁と連携する。「全国都市再生のための緊急措置」でも「都市観光地域別検討会」を設置するなど、都市観光の推進に取り組んでいる。  
★防犯・防災について、「防犯まちづくり協議会」「企業と防災に関する検討会議」など検討体制を構築。従来のまちづくりには少なかったテーマだが、地域住民や企業の代表等民間の協力を得ながら検討を進めている。  
★「歴史的たたずまいを継承した街並み・まちづくり協議会」「公共空間の多目的利用」「交通結節点の整備」等、共通の制度的課題を解決し制度を再構築する活動も推進しているところ。ヒートアイランド対策については関係局長クラスで本年度中に大綱を策定する。具体的な対策案があれば出してほしい。  
★「提言(素案)」の都市の魅力向上のための「新たな取り組み」「ソフトメニュー」「新しい公共事業」等について、その必要性・中身を、後半の活動を通じて具体例をあげて提示してほしい。また、「公民連携」はすでに取り組み済みのももあるが、今後どんな形でやればよいか、民間のアイデアを出してほしい。提案に期待。  
★最終報告では、政策として何のためのどんな制度・税制・ファンド・機関が必要か、既存の何をどのように変えればよいか、どこにどんな助成があればよいか等、具体的な中身を検討、提言に結びつけてほしい。  
★大阪は、財政難と企業の元気のなさが問題。産業が底から上がっていくようにするには、という視点で関心をもって見ている。提案に期待。



■中間報告・意見交換会：国土交通省都市・地域整備局

8月21日、国土交通省都市・地域整備局工藤企画課長・北村調整官・松井都市総室長をお迎えし、意見交換会を開催しました。田口専務理事の挨拶に引き続き、国土交通省から「重点施策」「都市再生特別措置法施行後の主な動き」等最近の状況についてご説明いただきました。その後、「中間報告書」に基づき各章を担当幹事から、提言(素案)を幹事長からプレゼンテーション。工藤企画課長、松井都市総室長から所感・コメントとともに、体験談を交えた示唆に富むアドバイスをいただきました。

- 日 時：平成15年8月21日(木) 10:00~12:00
- 場 所：都市みらい推進機構会議室
- 参加者：国土交通省都市・地域整備局  
企画課 工藤企画課長(併・都市再生推進室長)  
北村都市再生企画調整官(併・都市再生推進室次長)  
まちづくり推進課 松井都市総合事業推進室長  
都市再生研究会幹事会メンバー・都市みらい推進機構関係者
- 内 容：1. 国土交通省(都市再生関係等)の最近の状況  
2. 都市みらい 都市再生研究会 中間報告  
3. 意見交換(フリーディスカッション)

■主なコメント

★これまでモデル事業と言いつつ似たような街をつくり、まちづくりと言いつつまちこわしをやってきた面がある。先賢が都市づくりに果たした功績についての教育がなされていないのも問題。原点は人・コミュニティ。地域の特性・個性を生かしたまちづくりが必要。どうすれば国際観光都市として観光・交流を拡大できるかを真剣に。「ウイーンカード」(オーストリア)のようなシステムは都市観光推進の有力なツールとなりうる。(工藤課長)  
★平成11年に有志で「都市観光をつくる会」を立ち上げ、都市観光の普及啓蒙に取り組んできた。本報告にもあるように、都市観光という言葉の定着化に感慨。都市再生・都市観光振興はコミュニティの再生が一番の基礎。函館での体験から、来街者へのホスピタリティや公共交通機関により気軽に歩き回れる環境整備が魅力向上につながる。困り込もうとするだけではだめ。(松井室長)



都市みらいカレンダー

\*印のある項目については、他ページに解説があります。

財団

月	日	項 目	備 考
8	5	東久留米市地域産業振興会議	第4回
	19	都市再生研究会 都市再生本部との意見交換会	
	21	都市再生研究会 国土交通省との意見交換会	
	25	東久留米市地域産業振興会議	第5回
9	4	*品川新拠点研究会（民間）設立会議	第1回
	4	都市再生研究会 幹事会	第10回
	4	都市再生研究会 総会	
	8	平成15年度 低・未利用地活用促進モデル調査総合アドバイザー会議	第1回
	18	プロジェクト説明会（さいたま新産業拠点「SKIPシティ」）主催	第1回
	25	東久留米市地域産業振興会議	第6回

インテリジェントシティ整備推進協議会

8	22	鎌倉市研究会（仮称）準備打合せ	
9	3	インテリジェント・シティ推進に必要な新施策についての提言研究会	第1回
	18	プロジェクト説明会（さいたま新産業拠点「SKIPシティ」）共催	

地方の拠点まちづくり協議会

8	20	自主研究 「上越業務拠点地区」報告書完成に伴う上越市長へ報告	
	21	自主研究 「高崎操車場跡地周辺地区及び高崎情報団地」高崎市長へ報告	
	28	運営会議	
9	18	プロジェクト説明会（さいたま新産業拠点「SKIPシティ」）共催	

都市地下空間活用研究会

8	22	中心市街地と地下街のあり方分科会 幹事会	第14回
	25	大阪分科会 全体会	
	27	都市交通分科会 幹事会	第25回
	27	中心市街地と地下街のあり方分科会 全体会	
9	11	都市交通分科会 全体会	第10回

## 「地域づくり活動出会いの広場 整備調査」のご紹介

国土交通省では、平成13年度から、都市・地方連携を含めた地域づくり活動の推進を目的としたポータルサイトとして、「地域づくり活動出会いの広場」([www.chiikidukuri.net](http://www.chiikidukuri.net))の整備を進めており、当財団ではその整備調査事業を受託しています。本サイトは、平成14年5月から1,000を越える団体に情報登録をして頂いたうえで試行運用を行っており、更に平成16年度からは当財団による管理運営のもと、本格運用を開始する予定です。

「地域づくり活動出会いの広場」は、団体（NPO、大学研究室他）および自治体等の方々が、地域づくり活動に関する情報の発信、取得ならびに交流を行うことを支援するポータルサイトです。これにより、関連者が相互連携のもと、これからの時代にふさわしい地域づくりを行うことが可能となります。

上記のために、次のような特長を持ったポータルサイトを計画しており、現在具体的な検討を進めています。

- ①団体間の連携を中心とした地域づくり事例の豊富な掲載
  - ・国土交通省（都市・地域整備局 地方整備課）の関連事業における優良事例
  - ・登録団体等の特長事例
- ②人材育成情報の発信
- ③国土交通省（都市・地域整備局 地方整備課）の関連支援制度の紹介
- ④管理者を介したタイムリーな情報交流の実現
  - ・掲示板を利用した相談やイベント等の告知
  - ・地域づくり有効情報の速報提供（検討中）

本ポータルサイトでは、一般の方は登録情報や掲示板の閲覧が出来ますが、会員登録をして頂きますと、更に掲示板への書き込み等が可能となります。また、団体登録をして頂きますと、更に団体の活動内容・実績等をサイトを通じて広報することが可能となります。

皆様の積極的な活用をお願い致します。

（開発調査部部长 坂巻）

## 品川新拠点研究会 設置のご紹介

平成13年春に公有地の有効活用の観点から、芝浦下水処理場の上部空間活用をテーマに、当財団の自主研究として「芝浦・港南エリア研究会」を設置し、昨年6月にその研究成果を「品川観光ゲートウェイ構想」として、東京都に提言したことにつきましては、既にご報告の通りですが、今般、関係者のご理解を得られましたことから、従来の芝浦・港南エリア研究会を発展的に解散し、外部関係者とも連携した「品川新拠点研究会」を新たに設置することに致しました。

品川駅周辺地区は、そのポテンシャルが高く評価され、秋葉原と共に副都心格の新拠点地区に指定されているにもかかわらず、広域的観点からのまちづくりのガイドラインが不透明であるとの認識から、「品川観光ゲートウェイ構想」のリアリティ確認等を通じて、品川新拠点の魅力化方策を提言して行きたいと考えております。

因みに、第1回会議の開催は、9月4日（木）を予定しております。

本件にご関心のある方は、ご遠慮なく当方までご照会ください。

（企画調整部部长 篠原）

あとがき

みなさんは夏休みの間にどんな本を読まれましたか？私は買っただけで読んだ気になってしまう典型的な「積読」派ですが、この夏楽しめた一冊は「般若心経」です。

「般若心経」には古来より数え切れないほどの解釈があるようですが、最も一般的な解釈では、「般若」とは「大いなる知恵」ということになるようです。

かたや巷は、最近ちょっとした「知識」ブーム。暮らしに役立たない無駄な知識「トリビア」を扱ったテレビ番組は高視聴率を得ていますし、書店でも雑学を取り扱った本は飛ぶように売られています。みんな「知識」に飢えているのですね。

しかし、「知識」はただ持っているだけでは生かされません。問題を解決したり、新たなものを創造するには、「知識」を道具にして、みんなで頭をひねって暮らしに生かしていく「知恵」が必要です。自然と暮らす知恵、人となかよく暮らす知恵などなど、考え始めると意外に難しいですね。

では、今必要な「都市づくりの知恵」とはどのようなもののでしょうか。これは秋の夜長の宿題となりそうです。

企画調整部 西尾京介

発行

財団法人 都市みらい推進機構

〒112-0013

東京都文京区音羽2-2-2 アベニュー音羽3階

TEL : 03 (5976) 5860

FAX : 03 (5976) 5858

[kikaku@toshimirai.or.jp](mailto:kikaku@toshimirai.or.jp)

<http://www.toshimirai.or.jp>